

人むすびの場

第36回テーマ

“自己表現でつながる対話の仕掛け”
～デジタル・ストーリーテリングでつくる新たな市民社会～

日時	平成23年7月21日(水) 午後7時～9時
会場	スペースU
企画運営	“人むすびの場”づくり企画運営チーム

人むすびの場”をともに創りませんか？

- 「むすひ(産霊)」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。場には、不思議な力が宿ります。何かが生まれ行くエネルギーに満ちています。
- 「人むすびの場」は、ご参加の皆さん全員が「場づくり人」として、思いと知恵を分かちあう「対話と創発の場」です。
- 他者との対話を通じて見えてくる自分自身の思いへの気づき、次なるステップへのヒント、自然と生まれるつながりの発展の機会としていただけたらと思っています。
- 私たちの世界は、「人と自然」「人と人」のつながりが薄くなり、様々な問題を抱えています。でも、世の中には人財、知恵もそこかしこにあり、結び合うことで問題解決のパワーも生まれてくるに違いありません。
- 今の自分の一歩が、世の中がよくなることにつながる。そんな互いの思いを分かち合うことから、「和・環」となって、何かが変わることを信じている人々の集まりにしたいと思います。
- 「人むすびの場づくり企画運営チーム」へも是非ご参画ください。
- 新しいアイデア・企画の提供など、もろもろご意見をお待ちします。



プログラム

- 19:00 ◆オリエンテーション 人むすびの場とは
“人むすびの場”づくり企画運営チーム 高重 和枝
- 19:05 ◆スピーチ
「自己表現でつながる対話の仕掛け
～デジタル・ストーリーテリングでつくる新たな市民社会」
小澤 真人(おざわ まこと)さん
(デジタル・ストーリーテリング研究所 代表)
- 19:50 ◆人むすびカフェ
ファシリテーター 角田 知行さん
- 20:55 ◆本日のまとめ
21:00 終了
交流会(ピアンタ)



「自己表現でつながる対話の仕掛け」

～デジタル・ストーリーテリングでつくる新たな市民社会～

ゲスト 小澤 真人(おざわ まこと)さん

- 昨年、アメリカのデジタル・ストーリーテリング(DST)のワーキンググループ(デジタル・ストーリーテリング研究会)を立ち上げました。
- 3月に震災が起こり、震災ボランティアに入った人の心のケアのため、体験を振り返り、写真とナレーションによる短いデジタル映像作品にするワークショップや上映会をして自らメッセージを発信してもらっています。
- DSTは、90年代にアメリカ西海岸で生まれた手法です。応用演劇のフレイレの手法に映像制作技術・セラピーの要素を入れたもの。2000年には欧米からオーストラリア、アジアでも最近広まりつつあります。日本でも大学の授業や図書館で取り上げられているが、まだ社会活動としては広まっていません。
- 震災ボランティアの方の場合、言葉を失うような現場体験をして、あまりに非日常の経験のために、無力感を覚え、自分の感情を表現することができないということがありました。10代、20代の若者が現地を感じ続けていくことが大事だと思い、ワークショップを行っています。それを通じて個人の変化とコミュニティの変化の相互作用が起こってきます。
- DSTの特徴⇒
 - * 対話を中心(映像制作はプロセス)
 - * 自己を語るナラティブ(主観的物語)
 - * 個人の主体性(自己認知・自己肯定)
 - * 他者との関係性(共感、多様性の受容)
- 震災ボランティアの一人の「現地は音のない世界だった」というキーワードに共感が生まれ、本人も気持ちの整理がついたといいます。体験の意味が言葉で生まれてきます。自己を表現できるようになるのです。台本を1000文字書くことで自己確認できたことで、自己肯定ができ、他者との関係性も生まれてきます。
- 「共感の力」⇒
 - * 「感謝」が生み出します。
 - * 自己が他者に受け入れられているという「共感」「感謝」「受容」によるソーシャルキャピタルの醸成ができます。
 - * 個人とコミュニティの問題解決力の向上(意識の基盤づくり)につながります。
- 上映会をすると、「場の力」が生まれ、共有できる意識が醸成され、課題の深化が容易にできます。「対話の力」と「映像の力」で、自分を客観的に見る(メタ認知)ことができ、自分の認識を変える力が生まれます。認識の変化は、台本を作るときと上映会の二段階で変化し、コミュニティの変化にもつながります。

DSTの「変化の力」を震災支援、若者の社会参加、社会的弱者の支援、住民参加のまちづくりなどに活用していきたいです!



人むすびカフェ



人むすびカフェ

「もし、DSTを作るとしたらどのような物語を語りますか？
そこには何が表れると期待されますか？」

「一人ひとりが自分で自分の物語を語りだすところにどんな可能性を感じましたか？」



本日の感想①

* 今日、どんな気づきがありましたか？

- ・DSTを客観的に見る事ができた。
- ・自分を見つめることにデジタルの力が加わるとある意味異種格闘技的！可能性が非常に広がるということに気づきました。
- ・自己プロデュース
- ・自分の人生を見つめる、というとてもシリアスなことに取り組むひとつの手法、とても興味をひかれました。
- ・多様性ってステキ
- ・自分を語ること 自分をプロデュースする 台本を自分で作る
- ・個人と仕事
- ・DST(映像)の持つ力の可能性を感じました。自分を表現、発信することの意味、価値の高さを感じた。(今までは自分を表現する手法はあまりなかった)
- ・DSTは自分に向き合い、変化をもたらす。
- ・DSTの可能性は自分の言葉を紡ぐことが大事⇒デジタルを使うことで伝わりやすくなる。
- ・“一人ひとり”の意味
- ・受け入れル
- ・DSTは自分自身が変わる、気づききっかけになるのではないか。
- ・DSTで①共感・安心が得られる、②お互いを知ることで深い調和をつくれる。

本日の感想②

* 一番、印象に残ったこと(キーワード)はどんなことでしたか？

- ・自分で台本を書くイミ 個性と多様性の調和
- ・変化 CHANGE
- ・共感
- ・出来あがったものを見て共感・共有 2段階の気づき・変化
- ・変化
- ・一つ一つのストーリーの重み⇒世界が変わる
- ・自己発見
- ・多様性の調和
- ・自分で想いを語り、共感する。
- ・2段階の変化
- ・自己認識
- ・自分をさらけ出す ざんげをするような感じ
- ・共感・多様性・調和

本日の感想③

* その他、よかったこと、残念だったこと、質問など、ご自由に。

- ・ありがとうございました。
- ・アハ体験に近いおもしろさでした！ありがとうございました。
- ・変化
- ・今日も楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ここで、作品をもう少したくさんみたかった。というのは、一人よりみんなで見えたから。
- ・小澤さんのお話をもっと伺いたかった。
- ・他者から指摘されても納得しないことをDSTで理解することがあると分かった。
- ・面白かったです。
- ・最適化 ローカルコミュニティ
- ・DSTの映像を扱うことは自分自身を客観視する効果を発揮する。
- ・初めDSTのことが良く分からなかったが、可能性を感じる事ができた。

皆さん、一緒に場をつくってくださってありがとうございました。